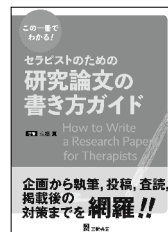


京極 真 (著)

この一冊でわかる！セラピストのための研究論文の書き方ガイド

齋藤 佑樹

(仙台青葉学院大学, 作業療法士)



15年以上前の話になるが、京極氏が『看護学雑誌』（医学書院）で連載していた「医療の零度一次世代医療への省察」の大ファンだった。医療者にまわりつくさまざまな前提を一度白紙に戻し、原理的に再考する内容に、そして磨き抜かれた言葉の精度に、毎号心が踊った。他にも、『作業療法士のための非構成的評価トレーニングブック—4条件メソッド』（誠信書房）や『構造構成主義研究』シリーズ（北大路書房）等々、これまで多くの氏の著作から影響を受け、私の「作業療法観」は創られてきた。

さて、その京極氏の新書である。本書は20年以上にわたり教育研究に携わり、多数の研究論文を世に送り出してきた氏が、『作業療法ジャーナル』（三輪書店）に連載していた「基礎から始める研究論文の書き方講座」に大幅な加筆を行い発展させたものである。本書は研究論文を書く前の準備から実際の執筆、査読や出版後の対策と網羅性が高く、それぞれがわかりやすい言葉で解説されている。

研究論文の骨格を成すIMRaD [Introduction (序論), Materials and methods (方法), Results (結果), and Discussion (考察)] については、各セクションを書く目的や事前準備について解説した後

で、書き方のコツやフレーズ集を提供し、読者の執筆をガイドしてくれる。そして読者がライターズ・ブロック（筆が止まり書き進められなくなる状態）に陥らないよう、あえてIMRaDの並びを入れ替え、難易度が低いセクションから順に書き進めることができるよう構成されている。また章間のコラムでは、生成AIやニューラル機械翻訳サービスの論文執筆への活用法についても解説されており、現代の執筆環境に即した内容となっている。

本書は日ごろから論文執筆に勤しむ人はもちろんのこと、論文を執筆したことがない初学者や学生、「研究」、「論文」といった言葉に拒否反応を示す人にもぜひ読んでほしいと思った。その理由は、本書が研究論文に関連した「言葉」と「文脈」を理解しやすいように構成されているからである。

人は、言葉の意味がわからないときや、その言葉が用いられる文脈をイメージできないときに難しさを感じ拒否反応を起こしやすい。しかし専門用語が多く、独自の文脈をもつ学問や領域は、「無理〜！」のすぐ隣に「楽しい！」が近接しているものである。その境界を越えるためには、使われている用語の意味を理解し、文脈を

捉えることが不可欠であり、一番の近道でもある。本書は論文の書き方をガイドしてくれるだけでなく、その境界を越えるための架け橋の役割も果たしてくれる。

論文執筆の経験がある人は、自身の能力や状況に応じて本書を辞書的に活用すればよいと思う。これから研究をしたい、論文を書いてみたいと思う初学者は、ぜひ時間をかけて本書を通読することをオススメする。研究論文の書き方のみならず、論文に関連した専門用語や取り巻く文脈を理解するプロセスは、きっと読者の知的好奇心を賦活してくれる。

作業療法は本当に社会のニーズに応える力と可能性を有するの？ その答えの一端は研究論文が担っている。作法に則り執筆し、厳しい査読を通過した研究論文には力がある。しかし他の専門職と比較して作業療法に関する研究論文の数は充実しているとはいえない現状がある。論文を執筆し、世に送り出すことは、作業療法を進展させるためのわれわれの責務である。ぜひ本書を道標として、たくさんの論文を世に送り出してほしい。送り出そう。

B5判 154頁 3,000円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357